[登場人物]

舟喜さら 高校二年生

映見 さらの母

杏奈 さらの姉。四つ違い。

水島めい 高校二年生

由梨(Julia)

ヨン(Jon) 由梨の息子。さらと同い年。

徳ちゃん 映見の従兄

トロール(あの男/男子生徒/男V/客)

※注意※

本作品には性暴力の描写が含まれています。ご注意ください。

自室

音楽。幕があく。

1

制服姿(スラックスを着用)のさらが座っており、日記を書いている。 は、クリップでハンガーに留められたスカートが掛けてある。 舞台には白い机が一つと、白い椅子と赤い椅子がそれぞれ複数点在している。その一つに、 別の椅子の背もたれに

さら 命が芽吹く春。 できない。今日は来るかな。 んできている。私の後ろに座っているはずの、 私は高校二年生になった。新学期が始まって二週間。 来てくれたらいいな。 めい以外は。母親を亡くすつらさを、 みんなはクラスに馴染 私は想像

そこへ映見の声。 さらはその気配に、 あの男がやってくる。遠くから、 怯えた様子で顔を向ける。 さらをじっと見ている。 目が合い、 すぐに背けて縮こまる。

映見さらー。

さらは日記を隠す。映見、やってくる。あの男、ゆっくりと去っていく。

映見(ドアをあけ、)あ、起きてたの?

ノックしてよ。

映見 遅れるよ。

さら わかってる。

映見 (スカートを見て)あ、 ねえ、

さら なに。

映見 スカート、穿かないならしまっておかないと。

映見 せっかく買ったのに。 さら

わかってるって。

さら もう行くから、はい、 出てって (映見を部屋の外へと押していく)。

映見 今晩夜勤だから。

さら はいはい。

映見 カレー入ってるからね。

さら はいはい。

自身も部屋から出て、 去っていくさら。見送る母。

映見 いってらっしゃい。

映見の視線はスカー トへと移り、 手に取って、去る。

2 教室

さら、俯きがちに教室へ入る。自席に目をやると、その後方の席にめいの姿。

遅れて男子生徒も入り、 隅の席に座る。

さら めい?

めいに駆け寄る。 振り向くめい。

心配したよー。

ごめん。

さら ごはんちゃんと食べてる?

めい ぼちぼち。

さら 干し芋は?

めい 干し芋は食べてる。

さら 主食干し芋かよー。

バリエーションすごいんだよ? 干し芋。

さら どんな?

めい 焼いて海苔巻いてお醤油つける。

さらえー。

めい 干し芋と干し芋の間にチーズを挟んでレンジでチン。

さらそれ何バーガーなの。

めい 干し、チーズバーガー?

さら 芋どこいったの。

めい確かに。

さら ってかノート、コピーしたやつ貰った?

めいあれすごい助かった。

さらよかったー。

めい 全然読めなかったけど。

さらえつ。

めいうそうそ、なんとか読めた。

さらなんとかかよー。

めい (首を横に振り、) ……ほんと、 ごめん。

さら謝んないでよ。

めい 連絡くれてたのに、返信しなくて、

さら いいってば、気にしなくて。こうやってこれたんだし。 ね?

めい(小さく頷き、)また同じクラス。

さらうん。奇遇だね。

い(微笑み、)キグー。

さら、鞄の中の教科書を机の中に移す。

めいさらはさ、

さら ん?

めい 両親の、持病とかって知ってる?

さら 持病?

めいアレルギーとか、糖尿病とか。

さら なんだったかな。 お父さんがハウスダストがどうとか、 お母さんは胃が弱いとかなんとか。

めいうろ覚え?

さら なんか、あんまりピンとこなかったのかも。

めいうちのお母さん、乳がんだったの。遺伝性の。

さら ····・。

めい 一回治ったと思ったんだけど。

さら 結構、前からだったんだ?

めいうん。

3.6。

めい まだ四十五歳だった。

さらめい、

めい 今のうちから、 知っておいたほうがいいよ。身近なことだから。

さら

チャイム。

一人 きりーつ。きをつけー、れい。おはようございまーす。

正面に向かって座る。 照明、 さらに集まる。 めい、男子生徒、 去る。

さら (日記を広げ、) ついにめいが学校に来た。春休みの途中で連絡が取れなくなって以来、久しぶ ていること、 今にも泣きだしそうな顔。 りに話をした。ずいぶん痩せたねって言うと、「イエーイ」って、無理矢理笑ってくれていた。 私も考えよう。 朝から、 帰りまで、ずっと。……めいの力になるには。 めいの考え

日記を閉じる。

3 舟喜家リビング・夕方

杏奈、帰宅。

宣奈 ただいまー。

杏奈 なに、第一声がそれ?

さら

どしたの。

さら 何かあったの?

杏奈 なんかないと帰ったらダメなの?

さらあ、退学になったとか?

杏奈 なんでよ。

さらお盆も正月も帰ってこないのに。

杏奈 いいでしょ別に。

さら私はいいけど。

杏奈 冷たい妹。

さらあ、カレー。まだあったかいと思う。

杏奈 お母さん夜勤?

さら うん。

音奈 お父さんは?

さらお風呂。

杏奈、タバコを吸おうとする。

さらねえやめてよ。

杏奈 アンタまで言うの?

さらぶんえん。

杏奈 肩身せまっ。外けっこう寒いんだけど。

さら
バレたらお父さんうるさいよ。

杏奈 ほんっと。 女だからなんだっつーの。 別にい いでしょ自分の体なんだから。 もー う。

杏奈、タバコをしまってカレーの用意を始める。

さら ……あのさ、

杏奈 んー?

さら お母さんの両親にって、会ったことある?

杏奈(少し考え、)ない。

さらやっぱそうなんだ。

杏奈 あるの?

さらない。

間。

杏奈 え? なんの話?

さらいや、なんか気になって。

杏奈 急だな。

さら ほら、ここお父さんの実家じゃん? おばあちゃんとは一緒にいたわけじゃん? 私たち、 でも母方のには会ったことないなって。 生まれてからずっ ٤ 父方のおじいちゃんと

杏奈 今さら?

さら そうだけど、お姉ちゃん気になったことないの?

杏奈ないけど、お父さんは亡くなったって聞いたよ。

さらえつ、お母さんのお父さん?

杏奈 うん。なんかすんごい酒飲みで、 確か食道がんって言ってたかな。

さら それいつ聞いたの?

杏奈 えー、結構前。

さらそんなの私知らない。

杏奈 ちっちゃかったんじゃない?

さら 四つしか違わないじゃん。

杏奈 充分でしょ。

え、じゃあお母さんのお母さんは?

杏奈 わかんない、 憶えてない。

さら テキトー。

杏奈 訊いてみりゃいいじゃん。

さら 何を?

杏奈 なんか訊きたいことあるんでしょ?

さら 踏み込んじゃいけない感じしない?

杏奈 別に。

さら お姉ちゃんのほうが冷たいと思う。

杏奈 まぁ早く家から出たかったしね。 あんたも長いこといないほうがいいよ。

さら

杏奈 やっぱ無理。

タバコを出して外へ去る。

さら がなかったのかもしれない。 う……私は、母のことをほとんど知らない。産まれたときから、 なったのか、 確かに、これまで気にしたことがなかった。疑問にさえ思わなかった。 母親のほうはまだ生きているのか、だったらどうして会ったことがないんだろ 母を母としてしか、見たこと 母の父親はいつ亡く

4

舟喜家リビング・翌朝

映見、 帰宅。

映見 あれ? おはよう。

さら (頷く)

映見 休みなのに早いね。

さら おかえり。

映見 めずらしい。

さら なに。

映見 (笑み、) ただいま。

冷蔵庫の中を開け、

映見 どうだった?

さら カレー?

映見 うん。

さら シーフードも、 たまには悪くはないかな、

映見 やった。

さらねえ、

映見 ん ?

さら 朝っていうか、 夜勤あけに話すことじゃないかもだけど、

映見 どうしたの?

さら お母さんの父親って、 がんで亡くなったの?

映見 うん。

さら それ言ったことあった? 私に。

映見 一緒にお墓参りに行ったの憶えてない

さら お墓参り?

映見 お母さんの父親、 つまりさらのおじいちゃんと、 私の育ての親の墓。

さら 育ての親って、どういうこと?

映見 実の両親は離婚したの、 私が三歳のとき。 暴力のせいで。

さら ……どっちの?

映見 父親の。

男 V、 入る。 目をみひらき、 遠くから映見の背中へと視線を注ぐ。

俯くさら。

映見 それで、 実の母親は、 妹と東京へ行っ た。

さら 妹って、 誰の?

映見 私の。

さら え、お母さん妹いるの?

映見 二つ違いの。わかれてから一回も会っ てないけど。

さら ちょっと待って。じゃあお母さんは、 その酒飲みと一緒に暮らしたの?

映見 しばらくはね。 父はすぐに再婚して、 子どもができて、 私は父の実家に引っ越したの。

さら え、なんで?

映見 なんでって?

さら 追い、 出された?

映見 んし、 そういうわけじゃないけど、 実家は近かったし、 自然にそうなったのか

さら かなって、そんな重大なこと。

映見 もう四十年も前だから。

さら

映見 実家にはおばあちゃん、 千恵子さんっ ていうんだけど、

千恵子さん。

映見 千恵子さんの、 旦那さんの俊二さん。 父の兄夫婦と、 その息子兄弟もい た。 だから賑や

かだったよ。

さら なんかややこしい。

映見
そうだね。

さら お母さんは、 実の両親とは暮らさずに、 父方のおじいちゃんおばあちゃんに、育てられた?

映見そうう。

さら 複雑。

映見 徳ちゃんには会ったでしょ?

さら 徳ちゃん?

映見 一緒に暮らしてた従兄。 お墓参りのときと、 ほら、 もう四年前か、 このうちのおじいちゃんの

葬儀のときにも会ったじゃない。

男V、さらへと視線を変える。

さら ……。

映見 大丈夫?

さらえ?

映見ぼーっとしてる。

さらいや、なんか最近忘れっぽくて。

映見の何か相談したいことがあったら言ってね。

さら ……。東京に引っ越した二人とは? 電話とか、 手紙とか。

映見なかった。

さら 会ってみたいとか思う?

映見今さら会ってもね。

さら。

映見 気になる?

さら まぁ、なんか、びっくりした。

映見 詳しくは言ったことなかったかもね。

さら 言う必要なかった?

映見 言えるほど、家族とは思えなかったんだろうね。 もう、 別の家の人。

さら どうして東京にいるって知ってるの?

映見むかり千恵子さんが言ってた。

さら 実家には、今も行ったりしてるの?

映見 ううん。行ってない。

さら誰が住んでるの?

映見今は徳ちゃん。

さら

映見 別に隠してたわけじゃないんだよ?

さら
それは分かるけど。

映見 ……ごめんね。

さら 別に、謝んなくても……。

映見 知り合いの紹介でこの家に嫁いで、……このうちのお父さんとお母さんは厳しかった。怒鳴 家を出たこともあった。でも二人がいてくれたから、がんばれた。 られたし、叩かれもした、イヤミっぽくて意地悪もたくさんされた。 あなたと杏奈と連れて

さら。

男V、去っていく。

映見(微笑み、)今が大事。あなたたちが家族。

さら。

映見 朝ごはん、食べた?

さら(首を横に振る)

さら いらない。

映見 そう。

映見、伸びをする。

さらうん。

映見

ためになった?

映見(あくびしながら)じゃあよかった。

さら寝て。

映見うん。おやすみ。

映見、去る。さら、その背中を見て、

映見おやすみ。

さらに光が集まる。

さら 胸が苦しくなった。喉に何かが詰まったような、お腹に石が溜まったような てる) ……この感覚……。 私は母を裏切っている。 でも、 苦しめたくない。 (お腹に手をあ

5 相談

昼休み。さらがお弁当をつついている。

そこへめい。

めいも一ほんとお腹ペコリーヌ。

こら ねぇなんかあったの?

めい なんで?

さら、スカートめっちゃ短いよ。

めいそう?

さらそうだよ。

めい 気分いいじゃんこのほうが。うちの制服ダサいしさ。

さら、喋り方もなんか変。

めい ってかさ、さらってなんでい っつもズボンなの? スカー トも持ってるって言ってなかっ

た ?

さらこのほうが楽だし、落ち着くから。

めい冬寒いしねー。

間。

さら話変わるけど、

めいん?

さら うちのさ、 母方のおじいちゃんとおばあちゃんに、 一回も会ったことないんだよね、 私。

めい どして?

さら なんか複雑なんだよね。 おじいちゃんはもう亡くなってて、おばあちゃんは東京にいるら

しいんだけど、 なんか小さいときに離婚したらしくて、 音信不通? みたいな。

めい東京。

さらおばあちゃんの実家が東京なのかな。

めいだったらいいね。

さらん?

めい 東京に親戚いたら良くない? 遊びに行きやすいじゃん。

さらあー、そう考えるとまぁ。

めい会いに行けば?

さらいや、場所わかんないんだよ。

めい知ってる人いないの?

さら いないこともないと思うけど。「突然なに?」 つ て感じじゃない?

めい そう? 気になるなら仕方ないじゃん。

気になるっていうか、 どうして離れてから一回も会わなかったんだろうって。 電話くらいで

きるだろうに。

めい 事情があったにしても、それを知りたいよね。

さら うん……、会えるかな。

めい(立ち上がり、)協力する!

らえつ

音楽。

めい、 さらを立たせる。 ノリノリでさらの背中を押して進むめい。舞台をぐるりと回る。

さら きそうになる)。 めいに背中をズンズン押され、 私たちは母の実家を探し始めましたぁーわわわっ! (つまず

めい、一人で走り去る。照明、さらに集まる。

さら 手がかりは母の従兄の徳ちゃんだけ。 私は母の携帯を盗み見て、徳ちゃんの電話番号をゲットしました。 お姉ちゃんは母の育った家を知りませんでした。

光の中にめいが入ってきて、

めい 電話できた?

さらうん、めっちゃ緊張したー。

めいがんばったね。

さら会って話すことになった。

めいえ、なんて話したの?

さら 学校で家系図を書く課題が出たって。

めい あー、直接おばあちゃんの居場所を聞いたわけじゃないんだ。

さら 聞きづらくって……。

いでも一歩前進だね。

らの食の日曜十四時、喫茶店で。

照明CO。

6 喫茶店

カランコロン(SE)。溶明。

めいパフェ頼むからね。

さらはい。

めい でっかいやつ!

さら なんでもいいです。

さらとめい、椅子に座る。

めい 徳ちゃんさんの顔わかる?

さら憶えてない。

めい会ったことあるんだよね?

さら 四年前。

めい四年かー。

徳ちゃん入る。カランコロン。

徳あ、待ち合わせです。

辺りを見回し、 2人を見つけてやってくる。 客も入り、 あいている席につく (SEなし)。

心お待たせ。

さらあ、こ、こんにちは。

徳 久しぶりだね。遠目じゃちょっと分かんなかったよ。

さら ……。

めい 友だちの水島です、初めましてー。

徳こんにちは。

めい 徳ちゃんさんですよね?

徳あはは、映見ちゃん、家でもそう呼んでるんだな。

さらあ、はい、あの、はい。

めい
さら、今日ちょっと具合悪いみたいで。

徳 大丈夫?

全然、 気にしないでください、 あの、 今日は母のこと、 いろいろ教えてください。

徳ちゃん、アルバムを出す。

徳 映見ちゃんとはよく遊んだよ、 うちの兄弟あわせて四人で(集合写真を見せる)。

さらこれ、お母さんですか?

徳うん。十歳くらいかな。

めいあ、似てるー。

さら 私?

めい鼻とか目元。

さら(鼻をかくす)

徳これは鬼ごっこかな、庭で。

さらお母さん、

めいめっちゃ速そう、

さら 残像が

よく外で遊んだよ。 川に入ったり公園で缶蹴り、 ひとんちの石垣のぼったり、 上級生の男子

に交ざって野球やったり。映見ちゃんは運動が得意だったな。

さら意外です。

徳 でも口数は少なかったかな。 みんなに優しかったのかもな。 だからか喧嘩もしたことなかったよ。 家族のことで傷ついたぶ

さら母は寂しがってましたか?

は誰のことも責めてなかった。 されて、じっと、立ったまま、 ときどき、みんなが寝たころ、 俺たち兄弟はラッキーだったよ、 庭に出て泣いてたよ。 どこか遠くを見つめてた。何を考えていたのか。 今でも憶えてる。 彼女と暮らせて。 月の明かりに照ら 映見ちゃん

さら どうしてですか?

徳 いろいろ教わった。逞しく生きる姿にね。 励まされたよ。

めい(微笑み、さらに肩を寄せる)

さら 母の実母は、 今どこに住んでるか分かりますか? 東京にいるとは聞いたんですけど。

徳 誰から?

さら母です。

徳 やっぱりそうか。

さら?

№ 見てもらいたいものがあるんだ。

徳ちゃん、鞄から手紙の束を出してさらへ差し出す。

さら 千恵子さんにですか?

徳

映見ちゃんのお母さんが、

うちのばあちゃんに出してた手紙

徳 うんうん。 たいだよ。 遺品整理のときに見つけたんだ。東京に引っ越したあとも、 しばらくは届いてたみ

客、去っていく。

さら、紐を解いて手紙を見る。はがきもあれば封筒もある。

大半は国内からだけど、 一通だけ、 アイスランドから来てる。

さら・めい アイスランド?

徳ちゃん、特定の封筒を手に取り、

中の手紙を広げて示す (写真も入っているがここでは出さない)。

徳ここ、読んでみて。

さら …… 、故郷、?

めい え?

さら "娘の結婚を機に、 故郷へ帰ることになりました。 日本で暮らしたこと、 すべてのことに感謝

間。

さら ビルタ?

徳 映見ちゃんそんなにヨーロピアンかなぁ?

さらないです、全然ないです。

どういうこと? さらのおばあちゃんはアイスランドの人?

さら(徳ちゃんを見る)

徳いや、わからない。

さら この、ビルタさんには会ったことないんですか?

徳 あるとは思うんだけど……、 でも外国の人なら憶えてそうだよな。

さら、よそから移り住んだのかもしれないし、

めい ってか、さらのお母さんも、 自分の母親がどこの人か知らないの?

さら(徳ちゃんを見る)

徳知ってたら、さらちゃんに言うだろうし、

さら、それはわかんないです。知ってて言わないだけかも。

めい そんなことある?

さら だって妹がいることも言わなかったんだよ?

徳まあ、昔のことだし。今さら、

めい いや、超重要じゃないですか? 自分の中に、 血が流れてるんですよ。 自分の命にDNAって、

超重要事項じゃないですか? 知る権利、 あると思いません?

心 ま、まぁ、確かに。

さら この手紙、いただくことはできませんか?

徳 どれも千恵子さんに宛てたものだったし、 全部もっていってほしい。見つけたとき、 千恵子さんが映見ちゃんに渡さなかったものを、 ほんとは映見ちゃんに渡そうと思ったんだけど、

俺が渡すのは違うだろうと思って。

さら でも、いいんですか?

徳 もし映見ちゃんのほうから訊いてきたら、 渡そうとは思ってた。 まさかさらちゃんが訊いて

くるとは思わなかったけど、さらちゃんが知りたい家族の歴史を、 俺が隠すのはもっと違う。

さら この中に、お母さん宛の手紙はないんですか?

徳少なくとも、宛先に映見ちゃんの名前はなかった。

めいなんでだろうね。

さら ……この際、 おばあちゃんがどこの誰かなんてどうでもい

さら、手紙をたたみつつ、

さら 関わりがないと、他人になっちゃうものですかね。

徳 ほんとは我慢してたのかもしれないよ。 微妙な状況だったからね。

さら、 手紙を戻そうとしたとき、 封筒の中の写真に気付いて取り出す。

№ あぁ、その写真に写ってるのが、

さら 妹さんですか?

徳 うん、分かる?

さら(頷く)似てます、お母さんと。

めい(写真を覗きこむ)

徳 手紙に書いてあるけど、旦那さんがその農場の経営者なんだって。

めい ここ、アイスランドですか?さら(写真をめいに渡し、手紙を冒頭から黙読)

徳そうみたいだね。

めい素敵な笑顔。

さら つまり、 おばあちゃんは、 結婚する娘と一緒に移住した。 それがもう、 二十年前のこと……。

い遠いね。

ゆっくりと転換。

さらその日から、母と顔を合わせるたびに、

映見、入る。じっと映見の顔を見つめるさら。

映見 ん? 顔に何かついてる? え、 もしかして鼻毛? ぁ 鼻毛だ。

映見、駆け去る。

さら 見つめてしまいます。 形作る遺伝子のこと。 そして、 頭の中で、 故郷。 想像が膨らんでしまう。 わたしの辿るべき、 ルーツ。 母が家族へ抱く思いや、 私たちを

アイスランド国歌が流れる。

7 教室·放課後

携帯電話を見てぼーっとしているさらのもとに、 めいがやってくる。

めいきた?

さらきてない。

めい「忙しいのかな。

さら 一週間前から更新されてないし。

めい あんまり使わないんじゃない? SNS。

さらでも写真とか結構のってる。

めいどれ。

さら(画面を見せる)。

めい(見る)へぇー。あ、オーロラじゃん、すごっ。

さら 個人のアカウントも探したんだけど、

めいこれ農場の名前あってるの?

さら あってるよ (写真を取り出し、めいに渡す)。

さら やっぱり、もう関わりたくない

のかな。

めい

ほんとだ。

看板の名前と一緒。

めいもうさ、行っちゃおうよ。

めい
バスかタクシー。

さら

だからお金ないし、

行ってもどうやって移動するの。

さらお金がない。

めいバイトは?

さら 一応探したけどさぁ、

めい私もう決めたよ?

さらえつ、

めい善は急げよ。

さら 本気で行くつもり?

めいあたりまえじゃん。

さら なんで?

めい行きたいから。

さら 無理しないでよ。

めいしてないし。

さら なんのバイトするの?

めい稼げるやつ。

さら なに?

めい
飛行機代って高いよねー。

さら ねぇなんのバイト?

めい いま予約すれば安いけどお金が足りない。 お金が溜まるころには値上がりしてて、結局買え

ない。不条理一。

さらめい、今日メイクしてるよね。

めいだから?

さらやっぱり最近変だよ。

めい普通にJKやってるだけ。

こら 彼氏でもできた?

めい何それウケる。

さら。

めい とにかくお金はなんとかするから、夏休みに行こう。

さらねえ、

めい
チャンスは今しかないんでしょ?

さら パスポートはまた更新すればいいよ。

めいまた言い訳。

さら 言い訳?

めいもらった手紙、なんでお母さんに渡さないの?

さら。

めい 渡して素直に言えばい いじゃ ん。 おばあちゃんに会ってみたいって。

さら言えないよ。

めいなんで。

さらなんでって、

めい 逃げてるだけじゃん。

さら …… (ズボンを握り締める)。

めい 自分の気持ち、大事にしてよ。

さら わかんない。

めい どうわかんない?

私も私で孫として、その人に会ってみたいって思っちゃってる。 みんなに嫌な思いをさせるだけ。 ともない高校生にいろいろ言われても、 れない。自分を捨てた人に、自分の娘が会いたいって言うんだよ? おばあちゃんに文句言いたいけど、お母さんがおばあちゃんのことどう思ってるのか、 トのところが分かんないし、 私が会いたいって言うことでお母さんが嫌な思いをするかもし 「 は ? お前誰」みたいな……。 向こうは向こうで会ったこ 意味わかんなくない? 結局ただの自己満の ホン

い、しゃがみ、さらの顔を見る。

め () の気持ちも、 うまく言えないけど、 ぜんぶ、 全部ひっくるめて叶えてほしい。(涙をこらえる) さらはなんにも我慢しなくていいんだよ? 自分の気持ちも、 お母さん

さらめい、

めい 頭がおかしくなりそう。 もう……どっか行こうよ。 ぜんぶ忘れてパーッとしたい。 じゃないとほんとに、 ほんとに

俯くめい。

さら、 めい の頬から顎を左右の手で包むようにして、 顔を上げさせる。

さらもう、やめよ。考えるの。

めい。

さら行こう。

音楽。

めい(笑み、)うん。

携帯電話の着信音。音のほうを見やる二人。

暗。

8 農場

ヨンが照らされる。携帯電話を操作している。

ヨン 日本語? (血相を変えて) かあさん、 かあさー ん!

明。

洗濯かごを持って入る由梨。

ヨンがあさん、これ見て。

由梨 帰ったならお父さんのほう手伝いなさい。

ヨン
大事なことだよ。

由梨 女性がアメリカの大統領になった?

ヨン もう、読むからね。 "はじめまして。" ……

由梨なに。

ヨン 読めない、漢字が。

由梨 漢字?

ヨン(携帯電話を渡す)。

由梨がはじめまして。突然すみません。

ヨン あぁ、「トツゼン」ね。

由梨 誰から?

ヨン読んで。

由梨 "私は 舟喜 さら と申します。"

ヨン やっぱりフナキー ばあちゃんの日本での名前!

由梨 "そちらの農場にビルタさんはいらっしゃいますか? 母にあたります。 名前しか分からないのですが、 私の祖

ヨン びっくりでしょ。 きっとこのサラって子は、 母さんの姉さんの子ども!

僕の、

あれだよ、日本語でなんだっけ。

- 由梨ョン、これいつ届いたの。
- ヨン 一週間前。さっき気づいた。
- 由梨 "私は今まで母方の家族について何も知りませんでした。 最近あるきっかけがあり、
- ヨン れてみたいでござるよ。いつかは留学したり、 いやぁ僕もね、日本に行ってみたいと思ってたんだ。 ばあちゃんみたいに住んでみたいな。 ばあちゃんが愛した日本の文化、
- 由梨やめときなさい(携帯電話を返す)。
- ヨン えっ? え、どうするの。
- 由梨 "本気で来たいなら来なさい。 * 、そう返信しておけばいい
- ヨン いいの?
- 由梨 駄目な理由がある?
- ヨン いや、僕はないけど。「やめときなさい」 って言ったのは何?
- 由梨 留学先はほかにもあるでしょう?
- ヨン 日本がいいんだけど。
- 由梨この話はあと。むこうを手伝って。
- コン はぁい

携帯電話を操作しながら駆けていく。 遠くを見つめる由梨。

9 ヨン

さら、入る。

さら 五万円ほど足りません。めいは、 アイスランドへの旅費を稼ぐため、わたしはアルバイトを始めました。食品の仕分けや梱包、 ただしくなりました。それでもいろいろ計算すると、 チラシを折ったり、週末みっちり朝から晩まで。勉強も疎かにはできません。 いまだになんのバイトをしているのか、教えてくれません。 夏休みの間に行くには、どうしてもあと 生活は一気に慌

メッセージの着信音。さら、携帯電話を見る。ヨンが入る。

ヨン "Hi! 仕事は順調?"

さら ……。(入力)。

ヨン 、よかった。くわしい予定が決まったら教えてください。 母と空港まで迎えに行きます。

さら (入力)。

ヨン "いいんだ。僕も母さんの家族に会いたいからね。 日本につい 、ても、 もっと知りたいんだ。

さら (入力)。

"母さんとばあちゃんは日本語で話していたからね。 僕も話せるけど、 書けないし読むのも苦

手なんだ。 父さんは「英語で話してくれ」って毎日ぼやいてたよ。

さら (入力)

ヨン "あぁ。仲がいいよ。 に入ったんだ。〃 でも、 ばあちゃんの Alzheimer's 認知症がひどくなって、 先月 Care home

さら アルツハイマー……。(入力)

ヨン からだは元気だよ。 でも、面会はできないかもしれない。

あの、 もしよかったら、Text じゃなくて声で話せないかな?

あの男、入る。さら、 あの男のほうを見て、すぐに目を逸らす。

さら、携帯電話をしまい、 去る。 ヨン、 返信がないことに首をかしげ、 去る。 あの男も去る。

10 舟喜家リビング・二十三時

杏奈、入る。遅れてさら、入る。

さら(溜息)

杏奈 どしたの。

さら わっ!

杏奈

さら びっくりしたー。

杏奈 こっちもびっくりしたわよ。

さら(物憂げに座る)

杏奈 忙しいの?

さらえ?

杏奈 バイト始めたんでしょ?

さらうん。

杏奈 まぁ、少しは元気になったみたいね。

さら どういうこと?

杏奈 何年か前から、あんたずっと暗かった。

さら ……お姉ちゃんはさ、お母さんの家族に会えるとしたら、 どうする?

杏奈 どうって、別に今さら興味ないっていうか、

さら アイスランドにいるんだよ。

杏奈 なにが?

さらおばあちゃん。ビルタって名前

杏奈 え?

さら
お母さんには妹がいるんだよ、由梨っていう。

京奈 ……。

こないだ由梨さんの息子、 つまり私たちのイトコから連絡がきた。

杏奈 なんて?

さら "本気で来たいなら来なさい" って。

杏奈 アイスランドに?

さら うん。

杏奈 それは、 なに、え?(笑う)マジで? アンタ何やってんの? (笑いが止まらない)

さら ちょっと、怖いんだけど(姉が)。

杏奈 だって、アンタいつからそんなアクティブになったの、 びっくりするわ。 面白い。

さら それで、なに、どうするの。 お姉ちゃんのツボってよく分かんない。

杏奈

さら 行くよ。

杏奈 お母さんと?

さら 友だちと。

杏奈 それお父さん許したの?

さら 黙っていく。

杏奈 バレたら殺されるんじゃない?

さら 一人じゃないし、向こうに着きさえすれば、 迎えに来てもらえるし、 泊めてくれる。

杏奈 ホントにお母さんの家族なの?

さら (携帯電話で撮っておいた写真の画像を見せる)。

杏奈 なに。(見る)これ、お母さんの妹?

さら うん。

杏奈 似てるわ。

さら 二十年後のその人に会いに行く。

杏奈 マジで?

さら マジで。

杏奈 (ふっと笑う)。

さら 面白い?

杏奈 (首を横に振る)

さら ÷?

杏奈 ビョークってわかる?

さら ビョーク?

杏奈 アイスランド出身の歌手。

さら 知らない。

杏奈 …… (携帯電話を返す)。

さら 関係あるの?

杏奈 いや、その人が出てる映画を、 思い出しただけ (さらに背を向ける)。

どしたの。

一服してくる。

杏奈、去ろうとしたが立ち止まり、振り向かず、

杏奈 無謀。

さら え?

杏奈でも、なんか頼もしくなった。

杏奈(振り返り、さらを見て、)安心した。

微笑んで去ろうとした杏奈に、

さらお姉ちゃん、

杏奈 ん?

さら お金貸して。

杏奈(噴き出す)アンタね、いま私なんて言った?

さらえ、「安心した」って。

杏奈 それがいきなり「金貸して」ってもう、 しっちゃかめっちゃかよ感情が。

さら だってチケット高くて、バイトしてもあと五万足りない。

杏奈(溜息)

さら れたら全部訊いてくるから。 すから。レポート書くよ、 一ヵ月以内に返すから、絶対。お土産買ってくる余裕はないけど、向こうのこと、 作文用紙何枚でも書く。 あと、 お姉ちゃんの知りたいこと、 メールしてく たくさん話 22

杏奈 いいわよ。

さら。

杏奈 その代わり、ちゃんと帰ってくるのよ。

さら(杏奈の目を見て、)はい。

杏奈 向こうにいるあいだはどこにいる設定にすんの。

さら え?

杏奈 黙っていくんでしょ? アリバイが必要でしょうよ。

さら(あっ)

杏奈 マジかよ。

さら どうしよう。

杏奈聞かなきゃよかった。

さら友だちの家って言う。

杏奈 絶対バレるよ。

さらええー。

合奈 じゃあいいよ、私んちってことにしな。

さら(えつ)

杏奈もう乗り掛かった舟。いや飛行機か。

さら いいの?

杏奈(短く息を吐き、)私のぶんまで行ってこい。

音楽。

さら行ってきます。

杏奈、去る。

11 通話

ける。 ヨンが入り、 あの男、入る。 さらは携帯電話を両手で持って話す すぐに着信音があって自分の携帯電話を見る。さらから掛かってきた電話を受 さら、携帯電話を操作し始める。そばに立って画面をのぞきこむあの男。 (音声をスピーカーに出しているていで)。

ヨン はい!

さら聞こえますか?

ヨンはい、聞こえます!

さらあの、そちらに行く日を決めました。

ヨン あっ、メモ、メモ取ります。待ってくださいね。

さら はい。

ヨン はい、どうぞ。

さら 八月二十四日の、 十九時十五分、 ケプラヴィーク国際空港に着きます。

ヨン OK. いつまでこっちにいますか?

さら そちらのご都合に合わせたいと思います。 あまり長くお世話になるのも、 申し訳ないので。

ヨン 母さんは「好きにしたらいい」って言ってたよ。

さら あの、由梨さんは私のこと、どう思ってるんでしょうか。

ヨン よくわからない。でもはっきり言う人だから、 いいって言うならいい んだと思う。

さら ……じゃあ、二十七日の午前中に帰ります。

ヨン えっ、もっといたらいいのに。

さら学校も始まるので。

そっか。忙しいね。

間。

あの男は徐々にさらから離れていく。

一人あの、

- ヨン あ、ごめんなさい。
- さら いえ、あの、すみません。
- ヨン えっと、こっちにいるあいだ、どこか行きたい所ありますか? よかったら案内します。
- さら 間欠泉、とかですか?
- ヨン そうそう、カンケツセンとか。近い所で一時間ちょっとかな。
- さら 一緒に行く友だち、めいっていうんですけど、
- ヨン メイ?
- さら はい。
- ヨン サラ&メイだね。
- さら(笑み、)はい。
- ヨン いい名前だ。
- さらめいは、ブルーラグーンに行きたいって言ってました。
- ブルーラグーンは空港に近いから、 通るときに寄れたらい いね。 入るなら水着を持ってきて
- さら 伝えておきます
- ヨン 僕らはたくさんの水とマグマに感謝してるんだ。 生活を支えてくれているからね
- さら 温泉がですか?
- ヨン 温泉も素晴らしいけど、発電さ。火力にも原子力に頼らなくて済んでいるんだ。
- さら 火力発電所も、原発もないんですか?
- ヨン ない。 温泉だらけだよ。Sulfur のおかげで肌も綺麗だしね。
- さら すごいですね。
- ヨン でも日本はこっちより熱の Resource があるって聞いたよ?
- さらえ、知らないです。
- ヨン
 コストや場所の問題があるのかもね。
- さら 環境とか、安全のことを考えると……、
- -ン そう。日本は痛感してるはず。自然との共存についてね。
- 映見、入る。
- 映見さらー、ごはんよー。
- さらあ、すみません、夕飯の時間です。
- ヨン じゃあ予定のこと、母さんに伝えます。
- さら お願いします。
- ヨンおやすみです。
- さら(笑み、)おやすみです。
- ョン、去る。

さら ちに、 まだ見ぬイトコ、ヨンは私と同い年。 訊いてきます。歴史やアニメ、政治、 私の視界がひらけていきます。 社会について。 ときどき現地のことを教えてくれたり、 私とはまるで違う。 彼と話していくう 日本について

あの男、客席に背を向けて床にあぐらをかき、目を瞑る。

さら 日が伸びて、 あとはお姉ちゃんに返すお金を稼いで、 蝉が鳴き、 あっという間に七月下旬。 旅行の準備を始めます。 無事に航空券を買うことができました。 めいと、 一緒に。

ヨン、入る。

ヨン 日本の軍事力は世界第五位だって。

さら 自衛隊って強いんだ?

ヨン そうなのかねぇ。

さら そっちは?

ヨン 警察とか、沿岸警備隊はもちろんあるけど、アイスランドには軍隊がありません。

さらえ、なくても大丈夫なの?

ヨン NATOに入ってる国の、空軍が、交代で警備してるんだ。

さら知らなかった。

ヨン 核兵器にも断固反対さ。

さら 日本は自衛隊を遠くに派遣して、 危険があるのに拡大解釈で正当化してる。

ヨン 他国との結びつきが強いよね。

さら 国民よりも大事にしてる。 利益優先、 嘘ばっ かり。 その場しのぎのやっつけアピール。

ヨン(どうしたの。すごく熱いね。

さら 最近イライラする。

ヨン 疲れてるんじゃない?

さら (首を横に振る) テレビとかネット、 ら、いろいろ調べるようになった。 そしたらなんか、 できるだけ避けてたんだけど、 見たくないものまで見ちゃうから、 お母さんのこと知ってか

しそうになる。頭が。

なんで見ないようにしてたの?

ヨン

あ の男、 立ち上がる。 遠くからさらをじっと見つめ、 動かない

さら。

ヨン 美味しいもの食べて、映画でも観てたくさん寝よう。

さら(短く息を吐く)

ヨン

さら アイスランドには苗字がないんだよね?

- ヨン ミョウジ?
- さら、私だったら舟喜さら。フナキっていうのが苗字。
- ヨン あぁ、うん。父親の名前に、息子もしくは娘っていう意味の言葉がつくんだ。例えばヨハン (Johann)の息子(son)ならヨハンソン(Johann s son)になるね。
- さら 母親の名前を使ってもいいんでしょ?
- ヨン そうだね。結婚しても変わらないし、家族でラストネー ムが違うことは不思議じゃな
- さら 同性婚も認められてるんだよね?
- ヨン うん。十年くらい前に。
- さら マイノリティーの人たちにも優しいんでしょ?
- ヨン 当然の権利としてね。偏見はないし、オープンだよ。 法的にもほぼ平等だしね。
- さらすごいよ。ほんと、同じ島国なのにぜんぜん違う。
- ヨン 泣いてる?
- さら泣いてない。
- ヨン 加してるんだ。 ……実は母さんが、 だからもし、 フェミニズム運動とか、 何か相談したいことがあったら、 LGBTQIA の支援に熱心で、 今度話してみたらどうかな。 団体での活動に参
- さら ……大丈夫。
- ヨン ……そう。

音楽

- さらもう遅いから寝ます。
- ヨン
- さらおやすみです。
- ョン おやすみです。
- さら、去る。(着替え)
- ヨン、 トロールの存在に気付き、 視線を向ける。 二人、 目を合わせ、 動かない。
- 突然、 硬く不気味なニヤけた顔になるトロール。 険しい表情のヨン。
- トロール、去っていく。
- ヨン 遠く、 離れた日本の家族に会える。 八月、 大陸を越え、 彼女たちがやってくる。
- ヨン、去る。
- 1 2 空港
- 長袖・ゆったりめのパンツルック。 リュックを背負い、 キャリーケースを引いたさらとめいがやってくる。

さら 七時半に出発して、羽田で乗り換え。

めい)からの、フランクフルトで乗り換えて到着。

さら移動時間は、

めい 二十一時間ちょっと。

さら時差はマイナス九時間。

めい、氷と火の国。どんな空気かな。

さらどんなだろうね。

めいの携帯電話に着信。

めい。

めい 親。

めい、電話に出る。

めい ふざけんなよ! 分の金で何しようが勝手だろうが!……は? いうこと? え、なに勝手やってんの? ねぇ。ねぇ! は? マジで言ってんの? いや、え、は? キャンセルって意味わかんないんだけど。どう……別に、お父さんに関係ないでしょ。……えっ? は? は? キャンセルってなに? いや意味わかんないから。 お前に関係ないだろうが! 私が自 27 ねえ、ねえ!

電話を切るめい。怒りに満ちている。

こら どしたの・・・・・。

めい ……キャンセルしたって。

さら 飛行機?

めい (頷く) なんでバレたんだろ……。

さら ……とりあえず、私もキャンセルしてくる。

めいさらは行くんだよ。

さらえ。無理だよ。

めい無理じゃない。

さら またいつか……、

めい いつか?

さらいつか、

めいいつか、

いつかって、 いつだろ。 ……ずっとこんな感じでいるのかな……?

めい
さらはどこへ行きたいの?

きら。

めい ずっとここにいたい?

さらいたくない。

めい じゃあ行って。飛んでいってよ。行きたいところへ行ったらいいよ。

さら めいは……?

い帰りを待ってる。

さら、深く俯いたあと、勢いよく顔をあげ、

さら パーッとしてくる。 めいのぶんまで、 パーっとしてくる。

不安を隠すように笑む二人。

飛行機のエンジン音が聞こえてくる。

のい気を付けて。

さらうん。

めい早く行って。

さら なんで?

めい親くるから、今。

さら ·····。

めい大丈夫。

さら いってくる。

いいってらっしゃい。

さら、去る。めい、見送り、去る。

溶暗。

アナウンス ご案内申し上げます。 く席にてお待ちください。 当機はまもなく離陸体勢に入ります。 ベルトを締め、 今しばら

エンジン音が高鳴り、離陸。

1 3 到着

さらが照らし出される。

さら 地元をたち、羽田で乗り換え、不安だったフランクフルトでの乗り換えも、 なんとかうまくい

きました。そこから飛行機は、 アイスランド、 ケプラヴィーク国際空港へと向かいます。

さら、去る。飛行機、着陸時の音が響く。

溶明。

舞台にはヨンがいる。 手には *ャッら and めい と書かれたスケッチブック。 到着出口のほうを

見やり、そわそわとしている。

さら、入る(上着を羽織っている)。辺りを見る。

さら (ヨンを見る)。

ヨン (さらを見る)

さら (会釈)

ヨン(嬉々として)ようこそーー

スケッチブックを脇に挟み、盛大な拍手をして迎えるヨン。

ヨン お疲れ様です! ヨンです。

さら はじめまして、さらです。

ヨン 母さんは車で待ってます(キャリー バ ッグをかわりに持つ)。

さら あ、ありがとうございます。

ヨン そんな他人事じゃなくていいよー? イトコなんだから。

さら 他人、行儀?

ヨン ギョウギ?

さら 他人行儀。

ヨン タニンギョウギ、他人行儀だなー!(笑う)

さらすみません。

ヨンお友だちは残念だったね。

さら はい……。

ラン 今度は一緒に来れたらいいね。

二人、歩きはじめる。ぐるりと歩く。

さら外、ほんとに明るいですね。

ヨン これでも暗くなったほうだよ。 冬に向けてどんっどん明るい時間がなくなっていくんだ。

さら極端ですね。

ヨン キョクタン?

さら 極端。

ヨン そう、キョクタンなんだ。

さら わかってます?

ヨン わかるよ? キョクタンだろ?

さら(微笑む)。

由梨、入る。

14 由梨

ヨンお待たせ。

さら はじめまして。舟喜さらです。今回はお世話になります。 よろしくお願いします 礼)。

由梨(ヨンに)キャリーバッグ後ろに。

ヨン はーい。(ヨン、トランクにキャリーバッグをつむ)。

由梨、運転席(右ハンドル)に乗り込む。

ヨン どうぞ (助手席のドアを開ける)。

さら ありがとうございます。

さら、 乗りこむ。ヨンは後部座席に乗りこむ。 由梨、車を出す。

自動車の走行音だけが響く。気まずい間。

ヨン 音楽ね、音楽。何がいいかな。

ヨン、携帯電話を操作し、Bluetoothで音楽をかける。

ノリノリのヨン。 しばらくして、 由梨、 タッチパネルで音楽を切る。

由梨母とは面会できない。

さら・ヨン(由梨を見る)

由梨 昨日も暴れたらしいから。やめておきなさい。

ヨンいや、ちょっと待ってよ、一目見るだけでも、

由梨 動物園じゃないのよ。

ヨン そんなこと言ってないだろ?

由梨 私だったら見られたくないね。 さっき言われたことさえ憶えてなくて、頭にあるのは不安と

混乱。焦燥感でじっとしてもいられない、パニックになる。仮にも自分の孫に、初対面でそ んな醜態さらしたい? そんなわけないよね。

ヨン。

さら わかりました。

ヨン いいの?

さら お二人に会えただけでも、 私にとっては、 大きなことです。 ……だから、 由梨さんのことを、

お聞きしたいです。

由梨 どんなこと?

さら す。私の母と、 離れ離れになってから、 今まで、 どう思って過ごされていたのか、 知りたいで

間。

移り住んで、結婚した。母は喜んだ。向こうは、日本は息苦しかったから。 姉の存在は母から聞いてた。写真もあった。でも記憶にはないし、会う理由もない。普通の 一人っ子として育った。大学でこっちに留学したとき、 今の夫に出会った。 卒業してすぐに

今まで一回も、 会いたいと思ったことはないんですか?

由梨ない。これからも、会うことはない。

さらたった一人のきょうだいなのに、ですか?

由梨 血縁だけじゃ、なんの意味も成さない。 大切なのは実質があること。

さら。

ヨン(小声で)頑固なんだ。

由梨 あなたのお母さんは? なんて言ってた?

さら「今さら会ってもね」って。

沈黙の間。

ヨン、再び音楽をかける。さら、俯き、やがて目を瞑る。

ヨン ついたよ。

『車。降りる三人。ぐるりと歩く。

家に入るまでのあいだに、 羊の声が聞こえてきた。 立ち止まるさら。

ヨン 羊だよ。見にいくかい?

さら(頷く)はい。

由梨ョン。

ヨン ん?

由梨 (手を差し出し、 キャリーバッグとスケッチブックを預かる)。

ヨン行こう。

その様子を遠くから見ている由梨。羊の声。ぐるりと歩いて羊の舎に向かい、(客席を)眺める。

ヨン 仔羊もいるよ。

由梨かわいい。

微笑むさら。去る由梨。

さらとヨン、ゆっくりと話しながら歩いていく。溶

15 夕食

暗い中、ノックの音。

ヨン サラさん? できましたよ。

溶明。ダイニングルーム。

椅子を引くヨン。一礼して座るさら。

さらあの、お父さんは。

ヨン 出掛けてる。植林で忙しいんだ。

さら 植林?

ヨン 両親そろって活動家。大変だよ。

由梨ョン、運んで。

ヨンは一い。

由梨 あなたのお母さんは? 何をしている人?

さら 看護師です。

ヨン へえ、 素晴らしい。 うちの母さんは教授を目指してたんだよ。

由梨 教育社会学者よ。教授になりたかったわけじゃない。

ヨン でも地位も必要だって言ってるじゃん。

由梨 重要なのは信頼よ。保証となるものが要るという話。 公の場で政治や社会に改革を訴える

力のひとつになるわ。

さら改革、

由梨 不遇な扱いや搾取を看過する政治、 社会そのものに根付いた「人権意識」 の欠如についてよ。

ヨン 飲みすぎなんじゃない?

由梨 まだワイン一本よ(あくび)。

ヨン あくびしてるじゃん。

ヨン、さらの前に料理を運ぶ。表情が曇るさら。

あの男、入る。

ヨン どうかした?

さら これ・・・・、 なんの肉ですか?

ヨン 羊だよ。子どもの。 赤ワインで煮込んであるんだ。柔らかくておいしいよ。

ヨンとあの男、ニヤリと笑い、ヨダレを手の甲で拭う。 仔羊のワイン煮込みを前に、 目を見開くさら。

ヨン えつ、

突然、

さら、

吐き気をもよおす。

あとを追おうとするヨン、 口に手をあて、 駆け出すさら、 去る。 あの男も去る。

由梨 待って(さらが去っていったほうを見つめる)。

ヨン (立ち止まるが、 由梨が何も言葉を継がないため、 構わず外へと駆け出る。 去る)

由梨、 反対側へ去る。

1 6 屋外

家屋の裏手。薄明り。

うずくまるさら。 駆け込んできて、 背後からヨン。 嘔吐するさら。 しかし胃にあまり食物が入っていないため吐瀉物は少量。

ヨン 大丈夫?

さら、 をあげる。 駆け寄ったヨンにびくりと反応し、 身を縮こませ、 ヨンを避ける。 ヨンの手がさらの背中に触れたとき、 小さく悲鳴

で、 あの男がやってくる。目は見開かれ、鼻はふくらみ、 ゆっくりとさらへと向かっていく。 細かく息を切らしている。 異様な表情

ヨン ごめん、 聞けばよかった。 肉は食べないようにしてるのかい?

さら

ヨン 片付けるよ。 ほかにパンもあるし、 クラムチャウダーを飲んでみてよ。 絶品だから。 その、

野菜も、 農薬を使ってないし、 健康に、 いい (俯く)。

あの男、 ヨン、 目をぎゅっと瞑るさら。 ゆ さらのかたわらにしゃがむと、 っくりとあとずさりしていく。 無理矢理さらの口元を片手で掴み、 上を向かせる。

あの男、さらを凝視し、ニヤリと笑う。ヨン、踵を返して去っていく。

男サラ、チャン。

体を押さえつけるため、さらの上にまたがるあの男。真上から、 あの男はそのままさらを仰向けに倒す。逃れるために抵抗し、 不気味な声が聞こえた瞬間、 照明、 さらとあの男に注がれる。 声をあげようとするさら。

男サラチャン。サラチャン!

あの男、笑い始める。

さらの口を塞いでいた手を離し、 くりをしたほうの腕を天高くまっすぐに挙げる。 他方の袖口をまくる。 そのあとまたすぐに口を塞ぎ、

そして大きく口を開け、縮こまったさらの喉元に勢いよく喰らいつく。 すぐに暗。

17 告白

あの男の反対側から由梨が入る。 舞台には放心した状態で腰を抜かしているさら。 こちらも、 さらからある程度の距離。 あの男は遠くからさらを見ている。

由梨 もう一時間よ。 ラムもチャウダーも、 あたため直さないと。

さら ……なんなんですか。

由梨 ん?

さら ちょっとくらい、 たんですか? 心配にならなかったんですか? どうしてるかなあって、 気にならなかっ

由梨ならなかった。

さら あなたたちの父親は! て、よくも逃げれたもんですね! 酒飲んで暴力ふるってたんでしょ? そんな男に女の子ひとり残し

由梨 ……。

さら い?! 生きているのか、私なんかよりずっと、ずっとアンタたちのほうが気にして当然なんじゃな お母さんが、 罪悪感とかないの? あなたのお姉ちゃんがこれまでどんなふうに生きてきたのか、 今どんなふうに

由梨 遠くもない。 かった。だから私は母を、この地へと連れ帰った。「故郷」。 ドからひとり日本へ、東京へと移住した母。 でも行ったのは間違いだった。 行くべきじゃな ……私は母と暮らした。母は見えない所で泣いていた。女手一つで私を育てた。アイスラン 母ひとりを愛することで精一杯だった。今は二十四時間手厚い介護を受けられる。 いつでも会える。 (息を吐く) ごめんなさい。 自然も人も雄大で、美しい。

さら ……ずるい。……アンタばっかりずるい……!

仔羊の鳴き声。 顔をゆがめるさら。

さらの目をまっすぐに、 鋭く、 且つ、 慈悲のある目で見つめる。

由梨 どうして来たの?

さら ……?

由梨 わたしに怒ってる?

さら
当たりまえじゃないですか。

由梨 ほんとうに?

さら は?

由梨 相手は、ほんとうに、わたし?

さら

.

由梨 私の母でもない。あなたはほかの何かに怒ってる。

さら ほかのって……、

由梨 自分の気持ちをつかまえて。隠さずに、目を背けずに。

由梨、さらの正面に膝をつく。

由梨 あなたは一人じゃないのよ。

照明・薄暗くなっていく。

さら (首を横に小さく振る) もう……、 なんなの? むかつく……! もう、 やだ、 もう嫌……!

あの男、 スマホのライトを点灯させ、 さらへと向ける (動画撮影)。

さら いつも、 消えてくれない。 ずっと、 すぐ近くに、どこにでもいる。 みんなアイツに見える。

由梨 アイツ?

さらわたしを、ぐちゃぐちゃにした。

由梨 男?

さら、頷く。

さら だって、どうしたらよかったの……?

由梨 聴かせて。はじめから。

さらイヤ・・・・、

由梨 好きにさせたら駄目。 あなたの人生を、 そいつの好きにさせるな。

少し離れた所で、手を離すあの男。さらに背を向けた状態で止まる。 あの男、さらの手を取り、強引に引いて歩く。引きずられていくさら。

さら ……神社。神社に連れていかれた。建物の、裏側。 と思ったのに、 無理矢理、 やだって言ったのに、 薄暗い、 湿ったところ。 夕方、 もう帰ろう

あの男、振り返り、 逃げようとするが恐怖で体がうまく動かず地を這う。 さらを見下ろす。

仔羊の声。地べたに丸くなるさら。

男 さらちゃん。

さら アイツは、

男 さらちゃん。

さら スカートをまくりあげた。

男 さらちゃん。

さら 脱がされて、

男 触られた。 さらちゃん。

さら

男 さらちゃん。

さらを無理矢理あお向けにして、 またがる。

さら やだ、 やだやだやだやだ、

あの男、 でいた手が、 さらの胸の上に置かれたスマホの光だけが、 さらの口元を片手で押える。 ゆっくりと離れる。 声にならない悲痛な叫びが、 かすかに漏れている。 鈍く響く。 口元を掴ん

さら バツン 音がした。 わたしが、 裂けた音。

徐々に、 あの男、 さらから離れていく。 スマホを手に取り、 裏表反転させる。 (スマホの光、 消灯) あの男のニヤけた顔が闇に浮かぶ。

溶明。 あの男は去らず、 スマホの画面をじっと無表情で見ている。

由梨 最低な男。

さら

田梨 いつのこと?

さら 四年前。中一のとき。

由梨 相手は?

さら 高校生……、 近所の知り合い、 お姉ちゃんと同い年……、 私が、 誤解させた、

由梨違う。

さら ただ話すだけだと思ってた……、もっとちゃんと言えば

由梨 言っても聞かない。 そいつはあなたを軽んじた。 あなたの声を聴く気がなかった。 子どもの

こころにつけこんだ、その鬼畜が100%悪い。

さら スカートを穿いてても?

由梨なに?

さら スカートを穿いて、肌を出してても、私は悪くない?

由梨当然よ、

さら メイクもしてた。リップとか、チークとか、 友だちと遊んだ帰りだった。

由梨 化粧も服も関係ないの。ズボンを穿いていても、 膝元まで下げられたら歩けなくなる、

られなくなる。だからズボンの人を狙う奴だっているのよ。

さら

由梨 こっちが何をしても襲う奴は襲う。 いようと、どんなに夜遅く出歩いてい 女性に自衛を求めるのは筋違いなの。襲う奴が悪いに決まってる。私たちがどんな服を着て 襲われないために自由を制限されるなんて間違ってる。 ようと、 相手の家でお酒を飲んだとしても、 襲われて

仕方がない理由にはならない。

さらでも、

男そんなの理想論だろ。

さら無理だよ、

男 あー彼女ほしー、童貞卒業してぇー。

さら通じない、

男 こいつなんかエロくね? イケるんじゃね?

さらもう遅い、

ラ あー、マジ使えるわコイツ。

笑ってた。携帯で、 動画撮ってた……。 アイツがどっか行くまで、 二年近く…… いつも、

呼び出されて、何回も、何回も……、

震えるさらを抱き締める。

由梨いいのよ、

.....こわい....、 (由梨にすがりつくように、) さみしかった……

涙があふれる。

しっ かりと受け止める由梨。 怒りを吐き出す。 あの男、 二人のかたわらに立ち、 見下ろす。

ごら 女に産まれただけで命がけ。こんなの不公平。

男 「子どもを産め」

さら 薬を飲まされ集団レイプ。 子宮から墓場まで。 け聴いてる? ないかって? ツテでもみ消そうとする。抵抗する余地があったって? 画に脅され続ける……地獄だよ、 イレを盗撮される、 ックスは撤去される、 で心がなさすぎ。どれだけ軽く見てるんだっつの。男性優位の社会の中で、 け無視してる、 男だらけの政治の陰で、 支配する。 被害者に厳しくて加害者に優しい。 ネットに晒されて販売・拡散、リベンジポルノに怯えて過ごす、 女に面倒みさせ続ける。そのくせ女を邪魔者みたいに、 医学部入試で得点を操作される、 娘をレイプ、 それでも不起訴、再犯を繰り返す。示談、不起訴不起訴、有力者の 死んだほうがマシ。 教え子をレイプ、通りすがりにレイプ、酒を飲まされ いつでも女が血を流してる。 SNSでもセカンドレイプ。ほんとに幼稚 大事な試験日を狙って痴漢される、 証明しろって? お前が悪いんじゃ テロ対策でサニタリーボ 女の意見をどれだ 要らないときだ レイプ動

少し落ち着いたころ、 あの男を睨みつけている。 さらから体を離す由梨。 あの男も視線を合わせ、 そのまま、 二人から離れて去る。

由梨 肉を食べない のは、 あなたの自由よ。 だけど家畜と自分を重ねるのはやめなさい

さら。

由梨 あなたは無力じゃない。 たのもの。自分の命を取り戻すのよ。 あなたは人生を、 自分の力で歩んでい ける。 あなたの心と体はあな

さら ……どうやって、

由梨しばらくここで暮らしなさい。

さら え?

由梨 ちょうど人手がほしかった。

さら どういうことですか?

由梨 ここで仕事をしながら、勉強するのよ。

さら 勉強?

由梨 日本の高校生が習えないこと。アイスランドには実績がある。 先進的な文化を肌で感じてほしい。 私は必ずあなたの役に立つ。 そして女性学や社会学の門戸を叩く機会にしてほ 見習うべき歴史がある。

さら なんで、急に、

私のためでもあったんだと思う。 ……母は再婚したくないっ 母の姿にたくさんのことを教わった。愛してくれた。 て、 その理由は教えてくれなかったけど、 あな きっと

らだけど。 たには大人として、 女性として、 一応あなたの叔母として、できることはしたいと思う。

……でも、さすがに、 相談しないと。

由梨 私からも話すわ。

さら

由梨 別に嫌ってるわけじゃない

さら 旦那さんには、 相談とか、

由梨 (笑み、) あの人こそ大丈夫。 自由な人よ。 れるわ。 生まれも育ちもここだから、 勉強の助けになってく

さら っていうか、 学校あるんですけど。

由梨 夏休みはいつまで?

さら 三十日です、 八月。

由梨 ……「Kvennafrídagurinn」。英語で「Women's Day Off」。 二ヵ月後の十月二十四日。 ジェンダ

—平等を訴えるためにストライキを起こす日よ。

さら ウーマンズ・デイ・オフ。

由梨 男女の所得格差から、適切な労働時間を割り出して、 そのぶんだけ勤務するの。

から一斉に女性がいなくなったら、 どうなると思う?

由梨 そう。女性も立派に国を支えていることに、 多くの人々が気付いた。 一回目の1975

女性たちの声は国民を、政治をも動かすことになった。五年後には世界初の女性大統領がう 39

まれた。今では議員や管理職の四割は女性。育児に関する制度も多くて、育休は夫婦合わせ

て九ヵ月。男性の取得率は八割。子どもを連れての出勤も、職場の理解が得られてる。ストリ

ップや売春は違法。DV加害者への法的措置も制定されてる。警察は必ず動いてくれる。そ

れでも格差はなくならない。収入のことだけじゃない。 社会の根底にある女性蔑視への抗議

のために行動するの。私たちはハラスメントや暴力には屈しない、決して黙らない。

その声で社会に、世界に示してみせるのよ。

(さらの手を握り、)この手で、そのからだで、

由梨 私たちという者を。

目に涙をたたえるさら。

由梨 社会の認識を変えるの。 支配していい *"モノ"* じゃない。 自由な 人間

さら (頷く)

由梨 あなたは一人じゃない。 私たちは諦めない。 さら。 その力を、 どうか貸して欲しい。

(何度も頷き、)はい。

辺りが緑に色づく。

ふと空を見上げると、 オーロラが揺らめいていた。

由梨運がいいわね。

さら ……すごい。

さら、涙をぬぐう。

18 主張

ヨンが入り、光が集まっていく。さらと由梨は去っていく。

ヨン 且つ 決して誰かのトロフィーにはなり得ないんだ。今すぐやめよう、意識を変えよう、 ずとも敬意を払おう。その血は、その骨は、その肉は、 ごしていきたい、その権利が、すべての人にあるべきなんだ、なのに無い。故意に もしくは ろうが僕らはみんなおんなじ人間。みんなオギャアと母から産まれ、ただ安心して毎日を過 う、からだを知ろう、人としての権利について考えよう。今、 無意識に、誰かに心を削らせている。その痛みにせめて気付こう、声を聴こう、真に共感でき うだけで侮辱的な行いを正当化する人から、目を逸らさずに糾弾するんだ。男だろうが女だ だけで得てきた特権を自覚するんだ、そして不要だと言って突き放せ。相手が〝女性〟とい なければならないか! それは僕だ。声をあげるべきは僕、そしてキミだ。 も持たずに誰かの叫びも、 るところで僕らの友がレイプされてる。家族に、 っていいと誤認させる社会に世界に今なお僕らは生きている。ふと目にする広告・商品とし 嫌悪、怒り。 窓越しに聴こえてた。サラさんの声が、僕の時間を止めた。湧き上がるこの熱は、 女性が搾取・消費されてる。 "個人"を讃える象徴なんだ。ルックスや "性的" かどうかでひとを見るのはやめよう、 反映、 女性というだけで痛みを強いられそのうえひとからモノのように扱われる、 させて、反復、反芻、反抗、 口を塞いで無きものにする。それは誰が、誰が変える。誰が変わら 家で、 神社で、 社会に、 知人に、見知らぬ誰かに。そんな地獄に疑問 公民館で、 世界に、 その精神は、すべてみなと同等であり 駐輪場で、 差別に、 その胸に湧いた力を、 奴らにNO-駅のホームで、 "男性" という 心を知ろ いた 40

8の男、入る。ヨン、あの男へ顔を向ける。

体もむけ、胸を張り、毅然とした態度で視線を放つ。

あの男はヨンに、ずんずんと近づいていき、 彼の胸倉をグイと掴む。

睨み合う二人。

あの男はヨンの腹を一発殴り、うずくまるヨンに蹴りを入れる。

仰向けに倒れたヨンを見て鼻で笑うあの男。

去ろうとして背を向けたあの男の脚を掴むヨン。

ヨン お前じゃない……、お前は相応しくない!

あの男はヨンを振り払い、 頭を踏みつける。

男 キモッ。

ヨンに唾を吐いて去る。

ヨン、 しばらく動かずにいたが、 震えながら立ち上がる。

あの男の去ったほうへ、雄叫びをあげながら全速力で駆け出すヨン。 去る。

溶暗。

19 連絡

翌朝。 携帯電話の鳴る音が響く。 溶明。

さら、 目をこすりながら携帯電話を取り、 画面を見る。 "お母さん" の表示。

映見、 入る。

さら (受話)

映見 もしもし? さら?

さら うん。

映見 今どこにいるの?

さら į アイスランド。

間。

さら お母さん。

映見 すぐ帰ってきて。

さら

え?

映見 水島さんから連絡があったよ。

さら 映見 ううん。めいちゃんのお父さんから。 めいから?

映見 めいちゃん、入院してるって。 さら

お父さん?

さら 入院? なんで?

映見 数年前、 お母さんが病気を患ったころから、 ずっと不安定だったんだって。亡くなるころに

はひどくなって、お薬を飲んでたそうよ。

さら 薬……、病気ってこと?

映見 双極性障害。 気分の波が、 極端に激しいの。 ひどく落ち込んだり、 そうかと思えば異様に明る

くなったり。 最近はちゃんと薬を飲んでなかったみたい。

さら それ、 怒りっぽくもなったりもする?

映見うん。よく喋ったり、衝動が抑えられなくなる。

さら …… (頭を抱える)。

映見 心当たりがあるの?

さら わたしのせいだ。

映見 なにが?

さら一今、めいはどうなってるの?

映見 あなたと空港でわかれたあと、 迎えにきたお父さんと喧嘩になったそうよ。 暴れて、 手がつ

けられなかったって。それで、……。

さら なに?

映見 車で家に帰る途中、 走ってる途中で、 後部座席のドアを開けて、 外へ 飛び出した。

さら。

映見 ちょうど橋の上で、 めいちゃ んは、 欄干に足をかけて、 飛び降りようとした

さら 飛んでないんでしょ……?

映見 うん。 でもずっと泣いてて、 何をするかわからない状態だからっ て、 それで入院になったら

しい。

ら ……聞いたの?

映見 めいちゃんね、 あなたが心配で、 「連絡させて」って、 泣き叫んでたって。 それで分かったら

しいの。あなたも一緒で、 もうそっちに行ってるって。 だからうちに電話がきた。

さらめい……、

映見 今は面会できないけど、無事は知らせられる。 きっと安心するわ。

さら ……ごめん、ごめんなさい、お母さん。

映見 ううん。どうしてアイスランドに行ったか、 杏奈から聞い たよ。

さら
お姉ちゃんのこと怒んないで。

映見 怒らない。お母さんが悪い。 さらの相談にのっ てあげられなか つ

さら(首を横に振る)

映見 頼りなくてごめんなさい。

さら やめてよ、お母さんなんにも悪くない じゃん。 お母さん、 いつも私のこと考えて、

てくれるのに、 わたしが言うこときかない、わがままだから……、臆病だから、

映見 そんなことない。だって、自分の知りたいこと、求めて、 探しにいったんでしょ? 強いよ。

今まで、 したいことほんとはたくさんあるのに、無いことにしてた。我慢しなきゃもっと

気持ちが救われた。 我慢しなくてい 11 んだって。 認められるものなんだって、 わかった。

どんどん、どんどん自分がわからなくなって……。

でも、

ここまで来て、

映見(何度も頷く)

辛くなるからって、

さら そっちには、二十八日に着く。予定通り。

映見 そう。

さら 由梨さんに、 まだ聴かなきゃいけないこと、 たくさんあるから。

映見 わかった。 お父さんには説明しておく。 文句は言わせない。

さら ありがとう……。

映見(大きく息をはく)待ってる。

さらうん。

映見あと、少しかわってもらえるかな、電話。妹に。

さらわかった。

さら、部屋から出る。由梨、入る。

さら おはようございます。

由梨 どうしたの?

さら電話、かわってもらえますか。

由梨 誰?

さらお姉ちゃんです。あなたの。

由梨 ……。(受け取る)

映見と由梨、電話で話し始める。

20 帰国

さら 帰国までの三日間。 私は町を見て回り、 話を聴いて、多くの文化と壮大な自然に触れました。

由梨 わかりました。任せてください。

映見 ありがとうございます。娘の、力になってくださって。

穏やかな表情の姉妹。

ヨン、さらの荷物を持って入り、渡す。映見、去る。

ヨンあっという間だったね。

さら
お世話になりました。

ヨン 今度は冬に来なよ。また別世界だから。

さら (頷く) でも今度は、 日本で、やることがたくさんある。 もっと落ち着いて滞在したい。 だからそうできる日までは来られない。

ヨン (頷く)僕も、僕だからこそできることをやるよ。 世界が良くなるように。

さらみんなの力で。

ヨン(強く頷く)(泣きそうになる)

さら泣きそうなの?

ヨン そんなことない。

さら(微笑み、)

さら、手を差し出す。

さら握手。

ヨン(涙をこらえて)

二人、握手。

さら由梨さん。

由梨気を付けて。

さら お世話になりました (深く礼)。

由梨胸を張って生きて。

さらはい。

さら、にこりと笑って去る。(着替え)

見送る二人。

由梨 いくわよ。

ヨン母さん。

由梨

ん?

ヨン 誇りに思うよ。

由梨

なにを?

ヨン(僕の、周りにあるものすべて。

由梨 ……世界には、いろんな分野で、新時代への改革を進める若きリーダーが大勢いる。 思い

浮かぶでしょう?

ヨン(頷く)みんな強い意志を持ってる。

由梨 私たちも、立ち止まってはいられない。

二人、去る。溶暗。 由梨、歩きはじめる。あとを追うヨン。

2 1 先へ

さらが照らし出される。

制服姿。スカートを穿いている。

さら 八月二十八日。日本時間二十時五十五分。わたしは地元に帰ってきた。三日後の始業式、 めいは来なかった。 一週間。 一ヵ月。そして二ヵ月が経った、 あるお昼休みのこと。

教室。薄明かり。

さら 起立、気をつけ、礼。ありがとうございました。

昼食。さら、お弁当の包みを広げる。

さらいただきます。

箸が進まない。俯くさら。

そこへ、 めいがゆっくりとやってくる。 遠くから、 声をかける。

めい 会えた?

めいと分かった瞬間、 さら、かすかに聴こえためいの声に、ゆっくりと顔を上げ、教室の出入り口を見る。 一気に駆け出す。 照明、 赤らんでいく。

歩き出していためいに勢いよく飛びかかるようにして抱きつくさら、泣きじゃくる。 子どもをあやすようなめい。

さら会えたよ、

めいのからだから顔を離し、見つめ合う2人。 ふいに、 さらのほうからキスをする。

45

数秒ののち、さらは再びめいに顔をうずめる。

めい、さらの頭に手を添え、なでる。

目をつむる二人。

やがて、めいからゆっくりと離れるさら、前を向き、

さら 社会にするために、 う、私と同じような目にあう人がいなくなるように、被害を隠さなくてもいいように、そんな 背負わせてしまった。それでも、声をあげなきゃ分からない。黙っていたなら変わらない。も 私は、恐怖で見えなくなっていた悲しみを、 なんてことはない。 弁護士に、警察に、打ち明けることにした。正直、私にとって辛いことしかない。家族にも、 ひとりの人間として声をあげる。 私は闘うことにした。政治が、 怒りを、解き放つ。あのころの被害を、家族に、 教育が、 だから、 人の意識が変わるまで。「今さら」 生きていける。